

ジャポニスム再興

わが国の工芸美術を
国際社会に普及定着させる方策

青柳正規
19/01/09

1

Terra cognita / Terra incognita

Ptolemaios, 2nd cent. A.D.

2

現代社会の連鎖性 Intricate

Tatting from Ardee, Ire.,
late 19th century;
in the Victoria & Albert
Museum, London

3

現代社会の相関性 Interactive

rush hours: about 180-200% → press of passengers
passengers: victims/causers of the press

4

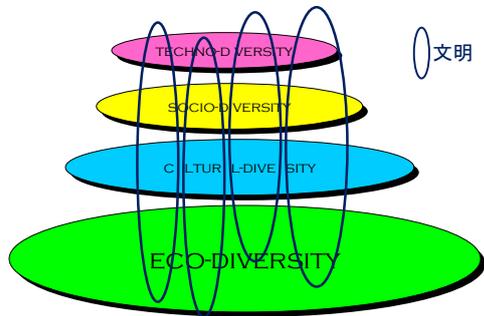
現代社会の曖昧さ・超域性 Borderless

5

多様性

6

多様な文明



7

文化の多様性

- 民族
- 言語
- 宗教・思想
- 社会慣習
- 道徳・倫理
- 芸術
- 価値観
-

8

美と用：日本の工芸

- 細工の質の高さ
- 地域を超えて通用する美
- 控えめな主張
- 工業製品と対抗しうる特質
- 多様な分野・品種
- 贅よりも素

9

日本の工芸の歴史

- 平安時代から現在まで、継続した工芸=手作り産業の歴史がある
- 古代、中世をへて、とくに徳川300年の平和な時代に、各藩の産業奨励策の中で生まれ、広範かつ高度に発展
- 江戸時代の蓄積が近代工芸の出発点になった
- *ヨーロッパは全般的に手作り産業を否定し、機械化を進めた。手作り産業が継承された日本と大きく異なる(イタリアなどの例外はある)

10

近代工芸の始動～展開（三つの工芸）

明治～現代

① 手作り産業としての工芸

幕末～明治初期以来の系譜

② 輸出工芸と機械工業化

機械産業化により、戦後、インダストリアル・デザイン、グラフィック・デザインと称される、モダンデザインの系譜としてのデザイン

③ 近代作家による工芸制作の始まり

11

1. 手作り産業としての工芸

民芸（民衆的工芸）

各地の地場産業を形成。経産省所管「伝統的工芸品」が代表的

- 漆器の輪島塗
- 陶磁器の伊万里焼
- 金工品の南部鉄器



12

2. 輸出工芸と機械工業化

- 1851年 ロンドン万国博覧会
 - 水晶宮博覧会、最初の万博(日本不参加)
- 1867年 第二回パリ万博
 - 日本初参加
 - 徳川幕府、薩摩藩、鍋島藩として
- 1873年 ウィーン万博
 - 日本が国として初参加

万博を通して、世界市場へ

→ ジャポニスム[熱狂的日本工芸ブーム]

13

1867年 第二回パリ万博

- 出品作品: 蒔絵、漆器、象牙彫、茶碗など
- 伝統技術を駆使した工芸品がヨーロッパの人々を魅了する
- 萌芽しつつあったジャポニスムを刺激

貝合蒔絵重箱



象牙彫筆筒



(参考: 東京国立博物館、2004「万国博覧会の美術展」)

14

1878年 パリ万博

- ジャポニスムは最高潮に達する
- 日本の工芸品は数々の賞をとる
- フランスの美術工芸に新鮮な刺激となる
- 陶器のミントン社、ガラスのバカラ社などは浮世絵などの図柄を取り入れた製品作製

ミントン社



バカラ社



15

2. 機械工業の系譜 (産業デザイン)

明治初期

輸出工芸思想、西洋のモダンデザイン思想の移植によって始まる



戦後

高度工業化社会の中で、インダストリアル・デザイン、グラフィック・デザインとして巨大な市場を作り出す

現在、手作りの陶磁器制作をルーツに持つ、陶磁器デザイナーが活躍

16

陶磁器デザイナー

森正洋



小松誠



3. 近代的な個人作家による工芸 「表現の工芸」

大正中頃～昭和初期に始まる



昭和30年代に、
伝統・創作・クラフト・前衛
という四傾向で定着、住み分け
状況を作り出す

19

現在の工芸地図

1. 伝統工芸
2. 創作工芸(日展系)
3. クラフト
4. 前衛工芸

20

1. 伝統工芸

1954年に始まる日本伝統工芸展で発表された作品を主とする。重要無形文化財保持者(人間国宝)らによって制作された作品



富本憲吉 色絵金銀彩羊歯文八角箱



清水卯一 青磁大鉢

21

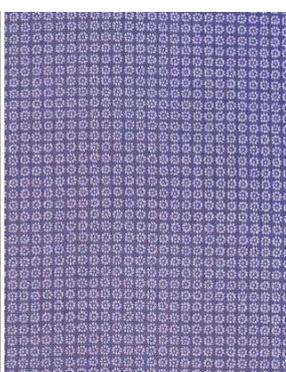
松田権六



22



稲垣稔次郎



小宮康孝

23



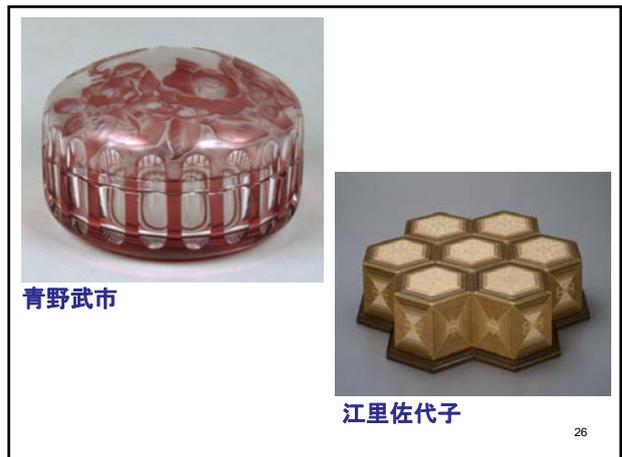
川上南南



室瀬和美



飯塚環斎



2. 創作工芸（日展系）

- 戦後、日展を活動の場として作品を発表してきた作家たちの作品。1962年に、現代工芸美術家協会を結成し、新しい工芸制作をめざす

河本五郎 「陶箱」 森野泰明 「海壁」



3. クラフト

「生活工芸」を新しい言葉「クラフト」と言い換え、クラフトデザイン協会を中心に活動してきた作家の作品。個人作家の作品であるが、実用性を最重要課題としたモダンな生活造形制作を目指した

勝間田千恵子 「抽象画の器」 古川章蔵 「花器」



4. 前衛工芸

工芸のフィールドから発して「用」を脱し、もっぱら立体ないし平面造形による表現を探求。立体はオブジェなどとも言われた



橋本真之「果樹園」



熊倉順吉「ジャズの城」 31



秋山 陽



柴田真理子



深見陶治

32

戦後工芸の発展を作り出したもの

1950年、文化財保護法制定

1955年、 ” 改訂

重要無形文化財を指定し、保持者を認定する「重要無形文化財制度」が出来る(人間国宝)

- ・重要無形文化財=手作り産業の歴史の中で育まれ、鍛えられてきた工芸技術
- ・その技術を用いていかに芸術作品を作り出すか、それが戦後工芸の一つの美の基準となる

33

主な公募展 工芸制作活動、制作者を支える

- ・日本伝統工芸展
- ・日展、現代工芸美術展
- ・日本クラフト展
- ・日本陶芸展、朝日陶芸展、国際陶芸展美濃
- ・全国伝統的工芸品公募展

<主な工芸賞>

- ・MOA大賞(+日本画)
- ・伝統文化ポーラ賞
- ・日本芸術文化財団伝統・現代文化振興賞

34

1950年以前のモノづくり

- ・“Made in Japan”の工業製品



安かろう悪かろう

- ・工芸品は例外



品質、美しさ、静謐な存在感

35

わが国の工芸美術はものづくりの原点

- ・伝統技術の蓄積
- ・日本文化に根ざしたものづくり
- ・職人技
- ・世界に通用する洗練された美
- ・洗練された美を表現する高度な技術水準
- ・その良さを適切に評価できる鑑賞者の高い水準

36

欧米の工芸と日本

- 欧米
 - 層が薄い
 - 美術学校からしか出てこない
- 日本
 - どこにでもある産地から大量に出てくる
 - 美術学校と連動

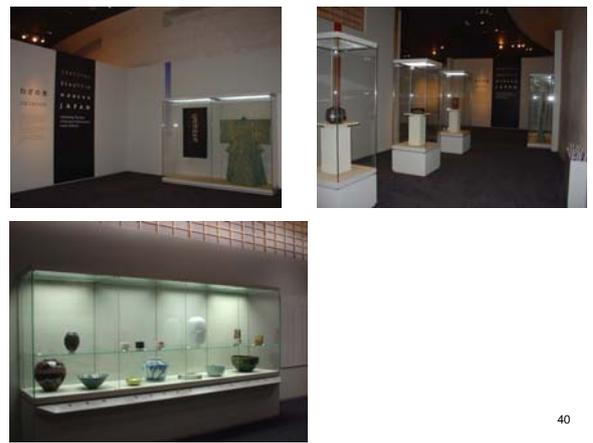
37

「わざの美 - 伝統工芸の50年」展 Crafting Beauty in Modern Japan

- 国際交流基金、東京国立近代美術館、日本工芸会、京都国立近代美術館、朝日新聞社などが協力
- 於：大英博物館 Hotung Gallery (第35室)
- 会期：2007年7月19日～10月21日
- 重要無形文化財指定制度が誕生した1955年から現代にいたるまでの過去50年の伝統工芸の歩みを、代表的な112点の作品により展示
- 陶磁、染織、漆芸、金工、木工、竹工、人形、截金、ガラス工芸など
- 出品作家：富本憲吉、石黒宗麿、浜田庄司(陶芸)、森口華広、小宮康孝、志村ふくみ(染織)、松田権六、黒田辰秋、音丸耕堂(漆芸)、高村豊周、鹿島一谷(金工)、水見晃堂、飯塚小齋(木竹工)、平田郷陽、堀柳女(人形)、江里佐代子(截金)ほか計111名

38

「わざの美-伝統工芸50年」展



40



41



42

わが国工芸美術の振興がもたらすもの

- ものづくりの基盤強化と魅力増強
- 工業製品以外のものづくりをアピール
- 国際社会における文化的存在感の呈示
- クール・ジャパンの一環として21世紀のジャポニズムを世界に普及
- 美的、文化的な生活様式の世界的スタンダードの一つとして確立
- 私たち日本人への自信の付与

43

事業

- 海外での工芸展の開催
 - 海外工芸展にともなう展示即売
- 成田空港、羽田空港の国際ターミナルに工芸館を設置
 - 表玄関に日本文化を展示
- 丸の内 or 日本橋に外国からの観光客向けの工芸館を設置
- 工芸に関する大賞等の選考・授与

44

事業展開のための資源

- 東京国立近代美術館工芸館
 - 明治からの工芸美術品約2500点を所蔵
 - 工芸各分野を専門とする学芸員6名
- 京都国立近代美術館
 - 明治からの工芸美術品約2000点を所蔵
- 東京国立博物館
 - 先史、古代、中世、近世の工芸品を所蔵

45

名称・ロゴ・ブランドの確立

- Japan Dento Next Action
- ↓
- JAPAN DNA
 - 工芸 KO-GEI

46

工芸 KO-GEI or KOE-GEI



47



48